

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/08/15

主要国株価が落ち着きを取り戻すか、否か

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	R B A 議事録に注目 予想レンジ: 77.50 ~ 81.40 円	2 - 3
<u>N Z ドル/円</u>	➡	株価から N Z の景況感に関心が移るか 予想レンジ: 62.70 ~ 66.20 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	➡	新たな材料がないと上昇は鈍そう 予想レンジ: 10.30 ~ 11.00 円	6 - 7
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします

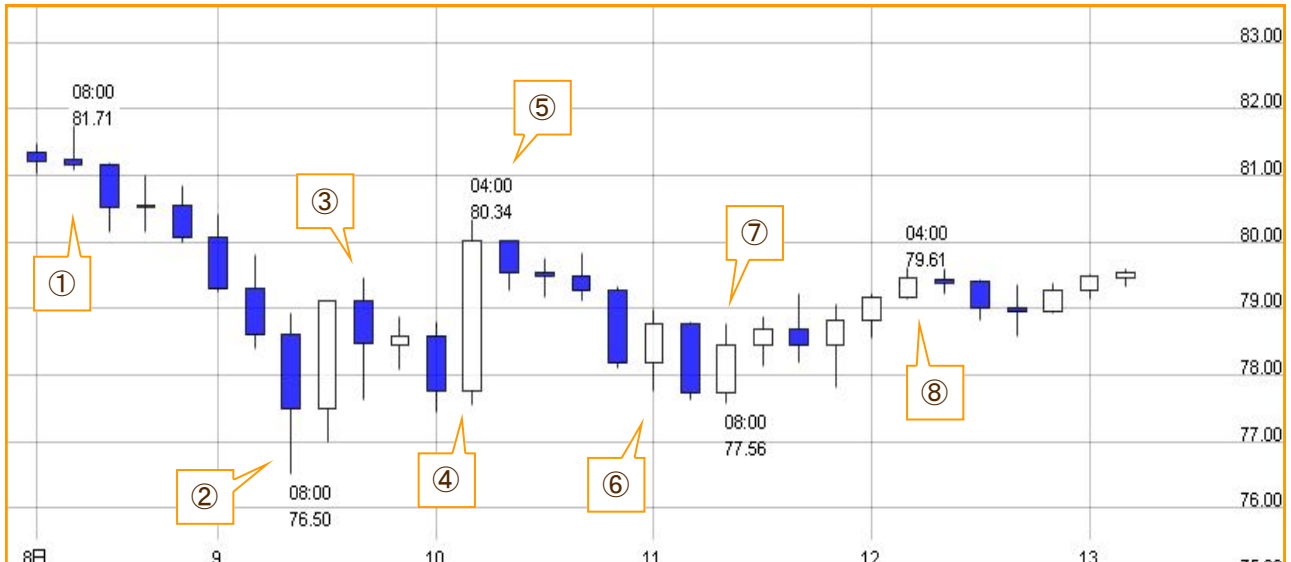


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 8/8~12の主な推移



<p>8/8 Monday</p>	<p>前週末5日のNY市場終了後、格付け会社S&Pが米国の格付けを従来の「AAA」から「AA+」へと1段階引き下げた事を受け、リスク回避の動きから豪ドル/円は前週末終値より70銭近く下落して始まった(①)。その後、アジア株を始め欧米でも株安が進行すると、豪ドル/円は軟調な展開が続いた。</p>
<p>8/9 Tuesday</p>	<p>前日の欧米株の下落を受けてアジア株が全面安となった事に加え、10時半過ぎに発表された中国7月消費者物価指数は前年同月比+6.5%と、前月や予想(共に+6.4%)を上回り、市場では中国の金融引き締め懸念が強まった事も重なり、豪ドル/円は3月17日以来となる安値76.50円を記録(②)。しかしその後、同日に予定されている連邦公開市場委員会(FOMC)にてバーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が緊急の会見を行うとの噂や、何らかの緩和策が示唆されるのではとの期待を背景に、アジア株が急速に下げ幅を縮小すると、豪ドル/円は79.47円まで上昇した(③)。その後、FOMCでの声明を受けてNYダウ平均が400ドル超の上昇となると、豪ドル/円も引けにかけて一段高となった(④)。</p>
<p>8/10 Wednesday</p>	<p>前日のNYダウ平均の上昇を受け、アジア市場でも株高が期待された事を背景に、豪ドル/円は一時80.34円まで上昇した(⑤)。だが、高く始まった日経平均株価が伸び悩んだ事や、北朝鮮が韓国との国境付近で海上に砲撃したとの報道をきっかけに、リスク回避の動きが強まると、豪ドル/円は下落。その後、仏の格下げの噂や、仏大手銀行の破たんの噂を背景に、金融株の下げが主導となって欧米株が大きく下げると、豪ドル/円は弱含みで推移した(⑥)。</p>
<p>8/11 Thursday</p>	<p>豪7月失業率は5.1%と予想(4.9%)よりも弱く、新規雇用者数も常勤雇用者数の減少(2.22万人減)を受けて0.01万人減(予想:1.00万人増)となった。これを受け発表直後は豪ドル売りが優勢となり、77.56円まで急落。しかし、中国人民銀行がインフレ抑制策として人民元の対ドルでの許容変動幅を拡大するとの観測が台頭した事に加え、時間外のNYダウ平均先物が大幅に上昇した事を背景に、その後豪ドル/円は78.77円まで反発した(⑦)。NY市場に入り、米新規失業保険申請件数が約4カ月ぶりとなる40万件割れとなった事を好感してNYダウ平均が上昇すると、豪ドル/円は79.61円まで上昇した(⑧)。</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念
- ・豪州の利下げ観測

今週の見通し

先週の豪ドル/円相場は76.50～81.71円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約3.1%の下落(豪ドル安・円高)となった。

先週は米国の格下げや欧州の信用不安など、リスク回避の動きが強まる中、11日に発表された豪7月雇用統計が事前予想よりも弱い内容となったことで、金利先物市場を中心に豪準備銀行(RBA)による利下げ観測が勢いを増しており、豪ドルは上値の重い展開となった。

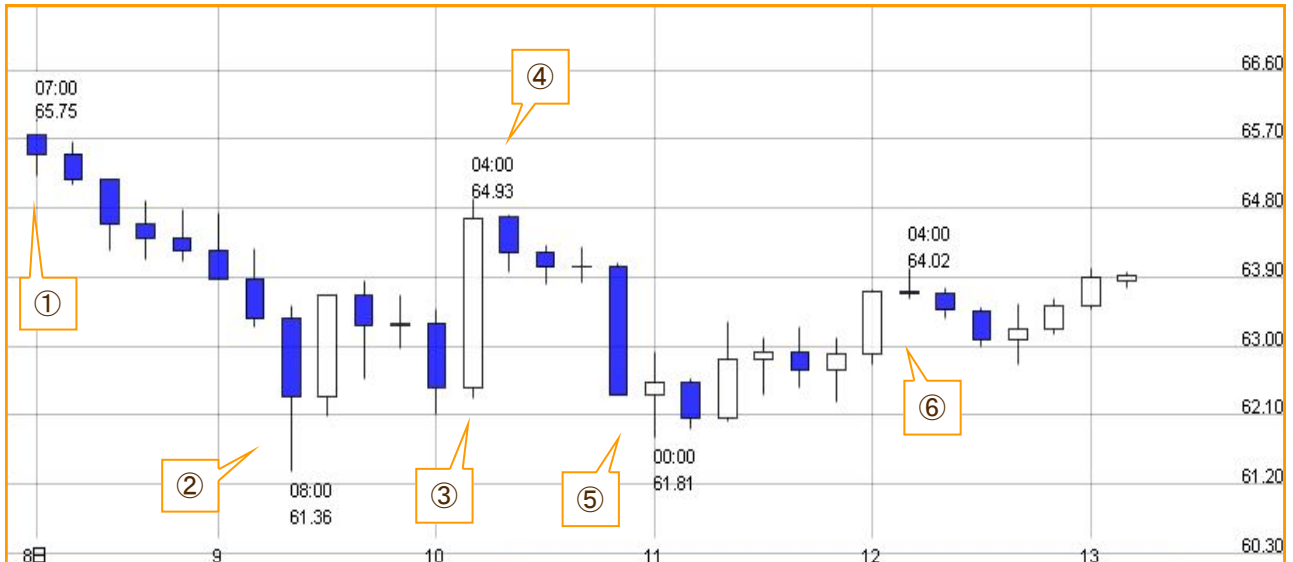
今週16日、豪州ではRBA理事会の議事録の公表が予定されている。既に2日の理事会で声明が出ているものの、議事録にて想定以上に弱気な内容が伝えられる場合、豪ドル/円は利下げを織り込むべく、売り優勢の展開が予想される。

ただ、米国を始め主要国の株価が反発する場合、市場ではリスク回避の動きが和らぎ、豪ドル/円に買いが入る展開も予想される。もともと、市場でのRBAの利下げ観測が払しょくされない以上、戻り高値では売り優勢となりやすく、上値は重いと推測される。(川畑)

(予想レンジ: 77.50～81.40 円)

NZD/JPY

NZドル/円 8/8~12の主な推移



<p>8/8 Monday</p>	<p>前週末5日のNY市場終了後、格付け会社S & Pが米国の格付けを従来の「AAA」から「AA+」へと1段階引き下げた事を受け、リスク回避の動きからNZドル/円は前週末終値より40銭以上下落して始まった(①)。その後、アジア株を始め欧米でも株安が進行すると、NZドル/円は軟調な展開が続いた。</p>
<p>8/9 Tuesday</p>	<p>前日の欧米株の下落を受けてアジア株が全面安となった事に加え、10時半過ぎに発表された中国7月消費者物価指数は前年同月比+6.5%と、前月や予想(共に+6.4%)を上回り、市場では中国の金融引き締め懸念が強まった事も重なる中、NZドル/円は3月29日以来となる安値61.36円を記録した(②)。しかしその後、同日に予定されている連邦公開市場委員会(FOMC)にてバーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が緊急の会見を行うとの噂や、何らかの緩和策が示唆されるのではとの期待を背景に、アジア株が急速に下げ幅を縮小すると、NZドル/円は反発した。その後、FOMCでの声明を受けてNYダウ平均が400ドル超の上昇となると、NZドル/円は引けにかけて一段高となった(③)。</p>
<p>8/10 Wednesday</p>	<p>前日のNYダウ平均の上昇を受け、アジア市場でも株高が期待された事を背景に、NZドル/円は一時64.93円まで上昇した(④)。だが、高く始まった日経平均株価が伸び悩んだ事や、北朝鮮が韓国との国境付近で海上に砲撃したとの報道をきっかけに、リスク回避の動きが強まると、NZドル/円は下落。その後、仏の格下げの噂や、仏大手銀行の破たんの噂を背景に、金融株の下げが主導となって欧米株が大きく下げると、NZドル/円は弱含みで推移した(⑤)。</p>
<p>8/11 Thursday</p>	<p>NY市場に入り、米新規失業保険申請件数が約4カ月ぶりとなる40万件割れとなった事を好感してNYダウ平均が上昇すると、NZドル/円は64.02円まで上昇した(⑥)。</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

今週の見通し

先週のNZドル/円相場は61.36～65.75円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約3.5%の下落(NZドル安・円高)となった。

先週は米国の格下げや欧州の信用不安などを背景にリスク回避の動きが強まり、世界的な株安の進行を背景にNZドル/円は大きく値を下げた。主要国の株価がパニック的な動きをする中では、市場の関心は株価の動きに集まりやすく、なかなかNZの景況感に集まりにくい。このため、株価が落ち着くまでの間、NZドル/円は主要国の株価に左右されやすい展開が予想され、主要国の株価が下げる場面では、NZドル/円は弱含む場面もありそうだ。

もし主要国の株価が落ち着きを取り戻す場合、年内の利上げ観測が浮上しているNZドル/円は買われやすいと見る。その場合は65.11円(8/1高値68.85円～8/9安値61.36円の値幅7.49円の1/2戻し)を突破できるかがポイントと見られ、ここを超えて行けるようだと、NZドル/円は戻り基調をたどることも考えられる。(川畑)

(予想レンジ:62.70～66.20円)

ZAR/JPY

ランド/円 8/8~12の主な推移



8/8 Monday	前週末5日のNY市場終了後、格付け会社S&Pが米国の格付けを従来の「AAA」から「AA+」へと1段階引き下げた事を受け、リスク回避の動きからランド/円は前週末終値より10銭近く下落して始まった(①)。その後、アジア株を始め欧米でも株安が進行すると、ランド/円は軟調な展開が続いた。
8/9 Tuesday	前日の欧米株の下落を受けてアジア株が全面安となった事を受け、ランド/円は一時2009年4月以来となる10.21円の安値をつけた(②)。しかしその後、同日に予定されている連邦公開市場委員会(FOMC)にてバーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が緊急の会見を行うとの噂や、何らかの緩和策が示唆されるのではとの期待を背景に、アジア株が急速に下げ幅を縮小すると、ランド/円は反発した。その後、FOMCでの声明を受けてNYダウ平均が400ドル超の上昇となると、ランド/円は引けにかけて一段高となった(③)。
8/10 Wednesday	前日のNYダウ平均の上昇を受け、アジア市場でも株高が期待された事を背景に、ランド/円は一時10.87円まで上昇した(④)。だが、高く始まった日経平均株価が伸び悩んだ事や、北朝鮮が韓国との国境付近で海上に砲撃したとの報道をきっかけに、リスク回避の動きが強まると、ランド/円は下落。その後、仏の格下げの噂や、仏大手銀行の破たんの噂を背景に、金融株の下げが主導となって欧米株が大きく下げると、ランド/円は弱含みで推移した(⑤)。
8/11 Thursday	NY市場に入り、米新規失業保険申請件数が約4カ月ぶりとなる40万件割れとなった事を好感してNYダウ平均が上昇すると、ランド/円は底堅く推移した(⑥)。

ZAR/JPY

上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
- 主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・南アの利上げ観測の浮上
- ・日本の円売り介入

下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷
- ・南アの利下げ懸念の浮上

今週の見通し

先週のランド/円相場は10.21～11.32円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約5.8%の下落(ランド安・円高)となった。

先週は米国の格下げや欧州の信用不安を背景に世界的な株安が進行し、ランド/円は大きく下げた。その後は主要国での株価反発を受けてランド/円も値を戻したものの、チャート上では依然として10.91円(8/8陰線実体部0.54円の1/3戻し)まで戻しておらず、豪ドル/円やNZドルと較べて戻りが弱くなっている。仮に主要国で株高が進行する場合、ランド/円も連れての上昇が予想されるものの、南アフリカでの年内の早期利上げ観測が高まるなどのサプライズ的な材料が出ない限り、上昇の勢いは豪ドル/円やNZドル/円よりも鈍いものとなる事が予想される。一方で主要国にて一段の株安が進む場合、ランド/円は下値模索の動きが強まり、10.21円(8/9高値)を始め10円の大台割れを試すことも考えられる。(川畑)

(予想レンジ:10.30～11.00円)

経済指標カレンダー (8/15~17)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/15 (月)	08:50	○	(日) 第2四半期GDP・一次速報 [前期比]	-0.9%	-0.6%
		○	(日) 第2四半期GDP・一次速報 [前期比年率]	-3.5%	-2.5%
	21:30	○	(米) 8月ニューヨーク連銀製造業景気指数	-3.76	0.5
	22:00	○	(米) 6月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+236億USD	—
	22:00	○	(米) 6月対米証券投資 [ネットフロー合計]	-675億USD	—
	23:00	○	(米) 8月NAHB住宅市場指数	15	15
8/16 (火)	10:30		(豪) RBA議事録	—	—
	15:00	○	(独) 第2四半期GDP・速報値 [前期比]	+1.5%	+0.5%
		○	(独) 第2四半期GDP・速報値 [前年比]	+4.9%	+2.9%
	17:30	◎	(英) 7月消費者物価指数 [前月比]	-0.1%	-0.2%
		◎	(英) 7月消費者物価指数 [前年比]	+4.2%	+4.4%
	17:30		(英) 7月小売物価指数 [前月比]	±0.0%	-0.2%
	18:00	○	(ユーロ圏) 第2四半期GDP・速報値 [前期比]	+0.8%	+0.3%
		○	(ユーロ圏) 第2四半期GDP・速報値 [前年比]	+2.5%	+1.8%
	18:00		(ユーロ圏) 6月貿易収支	±0.0億EUR	—
	21:30	◎	(米) 7月住宅着工件数	62.9万件	60.8万件
	21:30	○	(米) 7月建設許可件数	61.7万件	60.6万件
	21:30		(米) 7月輸入物価指数 [前月比]	-0.5%	-0.1%
	22:15	○	(米) 7月鉱工業生産 [前月比]	+0.2%	+0.5%
	22:15		(米) 7月設備稼働率	76.7%	76.9%
8/17 (水)	07:45		(NZ) 第2四半期生産者物価指数 [前期比]	+1.7%	+0.8%
	17:00		(ユーロ圏) 6月経常収支	-52億EUR	—
		◎	(英) BOE議事録	—	—
	17:30	◎	(英) 7月失業率	4.7%	4.7%
	17:30	◎	(英) 7月失業保険申請件数	+2.45万件	+2.00万件
	18:00		(ユーロ圏) 7月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.5%	+2.5%
	20:00		(南ア) 6月実質小売売上高 [前年比]	±0.0%	—
	21:30	○	(米) 7月生産者物価指数 [前月比]	-0.4%	+0.1%
		○	(米) 7月生産者物価指数 [コア:前年比]	+0.3%	+0.2%
		○	(米) 7月生産者物価指数 [前年比]	+7.0%	+7.0%
○		(米) 7月生産者物価指数 [コア:前月比]	+2.4%	+2.3%	

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (8/18~19)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/18 (木)	08:50	○	(日) 7月通関ベース貿易収支	+686億円	+693億円
	14:00		(日) 6月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数]	108.6	—
			(日) 6月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数]	103.2	—
	17:30	○	(英) 7月小売売上高指数 [前月比]	+0.8%	+0.2%
		○	(英) 7月小売売上高指数 [前年比]	+0.2%	—
	18:00		(ユーロ圏) 6月建設支出 [前月比]	-1.1%	—
	21:30	◎	(米) 7月消費者物価指数 [前月比]	-0.2%	+0.2%
		◎	(米) 7月消費者物価指数 [コア:前月比]	+0.3%	+0.2%
		◎	(米) 7月消費者物価指数 [前年比]	+3.6%	+3.3%
		◎	(米) 7月消費者物価指数 [コア:前年比]	+0.6%	+1.6%
	21:30	◎	(米) 8/12までの週の新規失業保険申請件数	39.5万件	—
	21:30		(加) 7月景気先行指数 [前月比]	+0.2%	—
	21:30		(加) 6月卸売売上高 [前月比]	+1.9%	—
	23:00	○	(米) 8月フィラデルフィア連銀景況指数	3.2	4.0
23:00	○	(米) 7月中古住宅販売件数	477万件	490万件	
23:00		(米) 7月中古住宅販売件数 [前月比]	-0.8%	+2.7%	
23:00		(米) 7月景気先行指数 [前月比]	+0.3%	+0.2%	
8/19 (金)	15:00		(独) 7月生産者物価指数 [前年比]	+5.6%	+5.3%
20:00			(加) 7月消費者物価指数 [前月比]	-0.7%	+0.2%
			(加) 7月消費者物価指数 [前年比]	+3.1%	+2.8%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。